

原子力災害時における広域避難説明会（概要）

日 時 平成30年2月21日（水）午後7時から午後9時

場 所 友部公民館3階大ホール

出席者 52人

質疑応答でのご意見

【意見等】

今後の行政区へ説明は。

【回答】

要望に応じて、行政区や自主防災組織での説明を行いたい。また、大字単位又は小学校単位で、避難訓練も兼ねた避難施設見学などを実施したいと考えている。

【意見等】

複合災害を考えているのか。福島事故では高速道路や一般道が大変混雑したがどのように対応するのか。

【回答】

複合災害は考えていない。避難先が決まったので、基本的な事項を盛り込んだ内容で早く住民に知らせるために策定をした基本的な計画である。

【意見等】

議会へ東海第二原発の20年延長申請の反対請願が出されたが否決されたと新聞報道された。

【回答】

これについては議会で議論し判断した。

【意見等】

福島の状況では、高速道路が混み合い進まなかった。混乱は無いと想定して計画は作成したのか。非常に不安を感じている。

【意見等】

説明会の出席者が少ない。広報に問題は無かったのか。要支援者を日頃からどのように確認しているのか。緊急時にどのように避難させるのか。それを自主防災組織が担うように感じた。本当に担えるのか。

【回答】

広く市民に周知できる媒体として、広報かさまお知らせ版を活用した。この他にも市のホームページにも掲載している。要支援者については、要支援者避難支援プランに基づき対応をしたい。自主防災組織に責任を負わずということではない。あらゆる機関が支援に入る。

【意見等】

身に迫ったシミュレーションをしてほしい。今後も説明会を開催すると思うが、広報紙に出したからではなく、みんなが知りえるような広報をお願いしたい。

【意見等】

実効性があるのかが重要な問題である。道路の渋滞について笠間市でどう対応するのか。住んでいる地域が30キロ圏外である。この計画との関係は。

【回答】

国において、30キロ圏外の対応についてまとめている最中である。事故状況の情報を収集していただき、屋内退避をしていただくのが大切だと考えている。また、笠間市としてどのように避難するのも大切だが、その他の13市町村がどのように避難をしていくのか、地域全体でシミュレーションを考えていくことが必要だと思っている。その中で実効性を高めていく。

【意見等】

福島の教訓を生かして計画を作っているという実感がないというのが率直な気持ちである。この計画の中で放射線から住民の身を守る方策の話がない。非常に不備であると思う。屋内退避でどれだけ放射線を防ぐことができるのか。放射線で環境が汚れているのにどのように一次集合場所へ行くのか。被ばくから身を守る方法を示さないと納得できないと思う。道路渋滞の解消のためJR水戸線の活用も考えてはどうか。

【回答】

国際原子力機構が定めた基準よりも低い数値のうちに、被ばくの可能性が低いうちに国が避難を判断することになる。JRなど公共交通機関の利用などは、県が検討をしている。

【意見等】

規制委員会は避難計画を安全審査の対象としていない。被ばくの問題は回避できるのか。20マイクロシーベルトは非常に高い線量であることを認識してほしい。待機時間が長くなった時、年間1ミリシーベルトを守れるのか。市民の健康を守ることをシビアに考えていただきたい。妊婦への対応はどうするのか。

【回答】

一次集合場所の開設を早急に行い、放射線量の影響を少なくする対応を行っていききたい。妊婦については、一次集合場所ではなく、自家用車で早急に避難するよう啓発していききたい。

【意見等】

できるだけ早く避難することは悪いことではない。しかし想定外の問題がでてくる。一次集合場所の施設、体育館の防護対策をするべきだと思う。

【回答】

今回は基本的な事項をまとめた計画であることと捉えてほしい。体育館よりは校舎がコンクリート造りになっているので、校舎を一次集合場所として考えることも含めて実効性を高

めていきたい。

【意見等】

スクリーニングは36,000人が行うのか。除染もやると相当の時間がかかると思う。今日の読売新聞で廃炉の記事が出ていた。廃炉する作業中でも相当の放射線の拡散が考えられるのか。

【回答】

退域時検査の実施は、県がシミュレーションをしている。その結果を計画に反映させたい。廃炉のことはわからない。東海第二発電所がある限り、避難計画は必要である。

【意見等】

安定ヨウ素剤はどのように備蓄されているのか。どのように配布するのか。一般市民への原子力災害の教育をどのように行っていくのか。

【回答】

現在、市内の保健センターに備蓄している。4月からは地域医療センターかさまに備蓄する。避難をする際にスクリーニングポイントで服用を考えている。錠剤とゼリー錠を備蓄している。今後も備蓄を進めていきたい。

【意見等】

広域避難計画は実効性が乏しい。東海第二原発の再稼働に反対する意見書を出してほしい。

【意見等】

説明を聞いても安心が出来ない。計画概要説明の中で今後の対応として避難計画の見直しというのがあるが、今日出た意見も含めて、住民の命を守る計画となるよう実効性を高めていただきたい。市議会が再稼働反対の請願を否決したという話があった。納得できない。安全協定の見直しも含めて、どうしたら市民の命を守れるのか、その活動をお願いしたい。

【回答】

安全協定など、笠間市だけの問題ではなく、茨城県と14市町村で協議をしている段階であり、ここで答えられないことをご了承ください。また、市民の安全を第一に考えてシミュレーション結果や国の基準の見直しを盛り込みつつ実効性の高い計画にしていきたい。

【意見等】

宍戸小学校区の平町は、30キロ圏内からほとんど外れていると思う。橋爪は入らないのか。原子力も考えて自主防災組織を作らないといけないのか。避難計画の最終はいつなのか。

【回答】

30キロの線で分けることは不可能である。大田町や平町は大部分が30キロの外であるが、30キロ圏内に入る南友部や大沢に大田町や平町の飛び地がある。基本的に大字単位を避難単位としている。自主防災組織の活動に、原子力のことを必ず入れるということではな

い。また、責任をおしつけているということでもない。計画がいつできるのかは、東海第二発電所がある限り計画の見直しは必要となり、東海第二地域の緊急時対応にまともらないと最終的なものにはならないと認識している。

【意見等】

避難経路において高速道路を使用すると渋滞になると思う。避難について区長とか自主防災とか民生委員に協力をもらうということだが、この人たちにも家庭はある。どうなのかなと思う。

【回答】

14市町村がどういった場合にどのような避難ルートで避難するのか、全体的にシミュレーションを行う必要がある。東海第二地域の緊急時対応でまともないといけないと思う。それぞれご家庭を持っている。しかし、行政職員対応だけでは対応できない。協力できる範囲で地元の中の支援をお願いしたい。

【意見等】

要望だが、市民に対して丁寧な説明をお願いしたい。マップは全市配布なのか。それとも説明会に来た人に配布なのか。

【回答】

マップは30キロ圏内の地域には配布しないといけない。配布方法は検討したい。今後、シミュレーションの結果を基に実効性のある計画に高めていきたい。